

### 富山湾で獲れたダイオウイカの一種

高山茂樹

魚津水族博物館 〒937-0857 富山県魚津市三ヶ1390番地

### Records of giant squid *Architeuthis* sp. in Toyama Bay

Shigeki Takayama

Uozu Aquarium, 1390sanga, Uozu-shi, Toyama 937-0857, Japan

ダイオウイカは、無脊椎動物の中では最大の生物で、体長4～5 m、体重百数十kgに達する。世界の温帯海域から亜寒帯海域の中・深層域に生息する。これまでに世界各地から15～19種が報告されているが、種の記載が体の一部分で行われていたり、標本として保存もされていないので、それらの分類は混乱が残っている。このような理由から、ダイオウイカの名前は、ツツイカ目ヤリイカ亜目ダイオウイカ科ダイオウイカ属*Architeuthis*に属するイカの総称を指す(窪寺、2000・2002; 奥谷1986)。富山湾でも稀に漁獲例があるが、報告例がない。ところが、2007年1月に2例のダイオウイカの一種が富山湾沿岸で確認されたので報告する。

1. 富山県射水市新湊漁港水揚げ個体(図1, 2)

捕獲日: 2007年1月13日

捕獲場所: 射水市富山新港沖定置網

大きさ: 背外套長 125cm

全長 260cm

備考: 午前中にダイオウイカが水揚げされたとの連絡があり、急ぎ新湊漁港に駆けつけた。イカ自体は、すでに死亡し、岸壁のプラスチック製容器の中に保管してあった(図1)。ダイオウイカの表皮は剥がれやすく、この個体も外套部分の表皮が大きく剥がれ落ち、白い外套がむき出しになっていた。輸送後、体を調べた結果、触腕が2本とも欠損していた。また、生殖腕がないのでメスと思われた。

2. 富山県高岡市雨晴マリーナに漂着個体(図3)

漂着日: 2007年1月22日

漂着場所: 高岡市雨晴マリーナ海岸

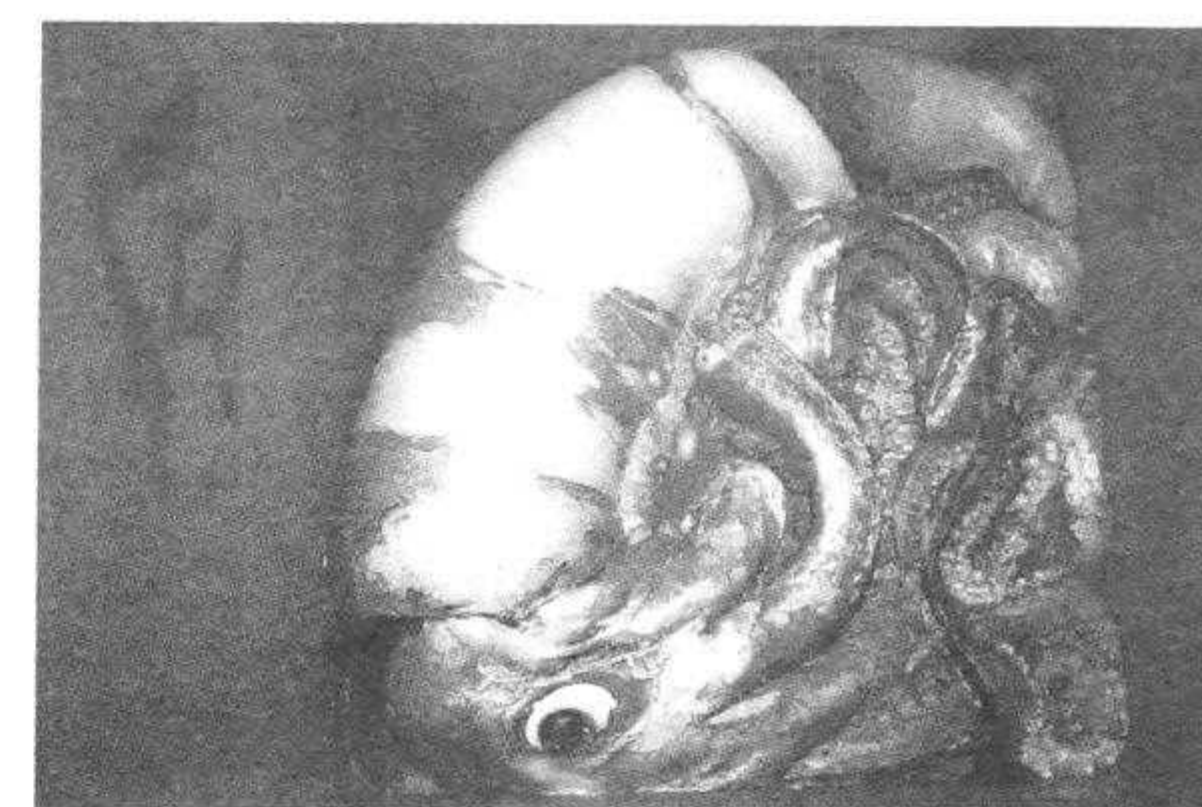


図1 水揚げ後、プラスチック容器に収容されたダイオウイカの一種



図2 水族館に輸送後のダイオウイカの一種



図3 富山県高岡市雨晴マリーナに漂着個体

藤島秀隆. 1984b. 蟹報恩譚と蟹淵伝説. 加賀・能登の伝承, 149-154, 桜楓社, 東京.  
 福田 晃・松本考三. 1994. 蟹満寺縁起. 京都の伝説—乙訓・南山城を歩く, 49-55, 淡交社, 京都.  
 今村充夫. 1962a. ガンノコウの話. 加能民俗, 5(9):1-4.  
 今村充夫. 1962b. 蟹の甲石伝説の要素. 加能民俗, 5(11):1-5.  
 今村充夫. 1978. 蟹の甲石伝説. 生きている民俗探訪 石川, 194-196. 第一法規出版, 東京.  
 齋 敏郎・中川正文. 1976. 蟹満寺縁起. 日本の伝説—京都の伝説, 161-170, 角川書店, 東京.  
 本尾 洋. 1974. 石川県近海産エビ・カニ類の地方名. 石川県増殖試験場研究報告, (3):9-19.  
 本尾 洋. 2007. 北陸の蟹伝説— I. 能美市の蟹淵.

富山の生物, (46):57-61.

中瀬精一. 1989. 五十里の蟹の甲石. 柳田の昔話, 6-16, 能登印刷, 金沢.

小田原利光. 1993. 蟹満寺訪問記. Cancer, (3):29-32.

小倉 学・藤島秀隆・辺見じゅん. 1956. キリコ祭り. 加賀・能登伝説, 日本の伝説 12, 116-119.

大島広志・常光 徹編. 1976. 蟹報恩. 三右衛門話—能登の昔話—, 149-150, 桜楓社, 東京.

立命館大学説話文学研究会編. 1978. 蟹報恩. 能登富来町昔話集, 富来町教育委員会, 51-53.

清酒時男. 1975. がんのこ掘り. 加賀・能登の民話 第2集, 日本の民話58, 255-258, 未来社, 東京.



大きさ：背外套長 約125cm (写真より判定)  
全長 280cm (写真より判定)

備考：死亡後、しばらく漂流し、漂着したと思われる。頭部、腕の損傷が激しく、腕は3本を残すだけであった。胴部は、表皮がなくなり、ほぼ真っ白の状態であった。

日本海に面した山陰地方や北陸の海岸に、冬季に限りダイオウイカが漂着することが知られている。その割合は数年に1匹程度の割合である(窪寺、2002)。ところが2006年12月から2007年2月にかけて、8例の捕獲または、漂着例が山口県か

ら富山県で見つかった。報道に掲載された事例を示すので、今後の参考にされたい(図4)。

#### 参考文献

- 窪寺恒己、2000. 頭足綱. 奥谷喬司(編)日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.  
窪寺恒己、2002. 海のモンスター・ダイオウイカ. 東海大学社会教育センター 海のはくぶつかん, 32(4):4-5.  
奥谷喬司、1986. 貝類. 決定版生物大図鑑, 世界文化社.

	採集場所	ML	TL	AL	BW	備考
2006.12.20	石川県					
2007.1.11	島根県隠岐					
2007.1.13	山口県長門市油谷川尻漁港	1.2m	2.7m		70~90kg	触腕なし
2007.1.13	富山県射水市新湊漁港	1.25m	2.6m			触腕なし
2007.1.22	富山県高岡市雨晴マリーナ	1.25m?	2.8m			
2007.1.23	島根県太田市沖	1.35m	6.73m	5m以上	70kg	
2007.2.9	山口県長門市油谷川尻漁港	1.2m	3m		70~80kg	触腕なし
2007.2.13	兵庫県豊岡市竹野町沖	1.47m	3m		90kg	触腕なし

図4 2006年12月から2007年2月にかけての捕獲漂着事例

## 平成19年度公開観察会報告

平内好子

### 有峰森林文化村語り部講

### 第2回「有峰の豊かな自然観察」

- ◇日時：平成19年8月19日(日)  
◇場所：有峰  
◇目的：有峰の植物・水生昆虫の観察  
(広く、一般の参加を求め、会員拡大を図る)  
◇交通手段 マイクロバス(保険込み2000円)  
◇参加者 25名(学会員7名、一般18名)  
◇日程・活動内容  
10:00~12:30  
折立遊歩道の植物観察(講師：佐藤 卓)  
12:30~13:30  
猪根平ビジターセンター付近で昼食・歓談  
14:00~15:00  
峠谷で水生昆虫の観察(講師：川添憲三)

今回は、昨年以上に多くの参加があり、活気のある観察会となった。

午前中は、佐藤先生を講師に、折立遊歩道をゆっくり歩きながら、植物のようすを観察した。折立遊歩道は夏緑樹林と針葉樹林の両方がみられ、変化に富んだ植物群落を観察できる絶好のコースである。途中、特徴的な植物群落のみられる場所でライトランセクト法を用いた植生調査を体験した。また、佐藤先生から、環境と植物の関係や有峰の歴史などを聞きながら楽しく歩いた。ただ、距離が結構長く、特に下りがきついで、年配の



方にはちょっと厳しすぎる行程だったようである。

午後は、昨年に引き続き、雨に降られてしまった。相当雨脚が激しく、仕方なくバスの中で待機。川添先生から、水生昆虫の見分け方について説明を聞いているうちに雨も小降りになり、活動再開。みんな長靴を履いて川の中にじゃぶじゃぶと入り、川添先生お手製の網を使って、川底の水生昆虫を採集するのに夢中になった。珍しいトワダカワゲラや石についたトビケラの巣などを興味深く観察した。午前中の日程が延びたことや降雨のため、水生昆虫の観察時間は短かったが、なんとか実物に触れることができて良かった。

#### 《感想から抜粋》

- ・初めての参加でしたが、知識のない者も楽しむことができました。講師の先生のとっていただく詳しい説明ありがとうございました。
- ・いつもは通り過ぎるような生物に目がいき、楽しかった。森の木や空や水が美しかった。水生生物も可愛かった。
- ・水の中の生き物を見られたのも楽しく、ずっと見ても飽きませんでした。これからの山登りには小さな網を持参したいです。
- ・「植物は無駄なことではない」の言葉が印象的。これからの諸現象を見るときに役立てたい。
- ・たくさんのお木の名前を教えてください、気持ちよく歩くことができました。少しずつ覚えていきたい。
- ・有峰は、私共もまた自然の一員であることを体感できる場である。
- ・植物と動物両方楽しく学べて良かった。本で勉強するより体験するのが一番だと思いました。
- ・秋の紅葉の時期も楽しいかなと思います。